

H・G 欧米を駆けめぐる ()

秋山日出夫

暇があって銭があったら、今日のご時世だもの一度は日本を離れて、異なった空気でも吸ってこようとは、誰でも考えることだろう。私などにいたっては、暇もなければ銭もなし、外国ゆきなどはついぞ考えてもみなかったし、夢にだって見たことも無い。どういう風の吹き廻しか、昨年、欧米行きの話が持ち上がった。これにはいささか、たまげた次第である。

文部省芸術課推薦、社会教育視察というのである。

暇が作れるだろうか。毎日毎日飛び廻って、休めという字を忘れていたような今日この頃である。合唱団の人達が淋しがらうだろう。私に言わせれば、千人にあまる恋人達、5百人を越すだろう兄弟分達を、たとえ一ヶ月とはいえ残していく辛さがある。だが、ありがたいことだ。皆喜んで、おめでとう、と言ってくれた。可愛い親父には旅をさせるとでもいうのだろう。こんな時にはおめでとう、というものだろうか。一寸変な気持ちになったものだ。休暇がもらえてまず安心として、次がいけない。銭の問題だ。およそ銭には縁の無い私だから、この点誠に弱い。金輪際他人にすがる気持は無いのだから、頼りは女房だけということに相なった次第である。合唱団の恋人・兄弟分達がこぞって問題を解決してくれたのには、頭の下がる思いがしたのであった。合唱屋稼業のありがたさをしみじみ感じた次第である。

暇と銭の見通しがついて、勇躍文部省に出頭、快諾の返事をつたえた。とたんに言われたのは「言葉は大丈夫ですか」これはまた、大きなショックであった。伏兵にぶつかったような気がして、ドキンとせざるを得なかった。小生外国語にはおよそ弱い。弱いなんていうものではない。まるっきり駄目なのである。「何とかなるさ」これが小生の心得であり、胸をはって歩け、上を向いて歩けであり、人一倍強い心臓をこんな時にこそ活用する。英語の単語1%。日本語99%。これを補うものは、ジェスチャーと、心臓の強さでと決めて出発と相なった次第で、涙ぐまじき話である。およそ日本人くらい歓送迎の好きな国民は無いと知っている。「羽田での見送りはご遠慮申し上げます」の予防線も何のその。9月4日ロビ-にはなんと250人も恋人・兄弟分が集まって、大合唱の見送りとなり、ありがとう、ありがとうの頭の下げっぱなしであったが、矢張りこれはうれしいものだ。

美男子とは力の無いもの、昔の人はいい事を言ったものだ。誠にその通り。小生にとって重い荷物は禁物である。制限15キロを10キロに減らして、気も軽く荷物も軽く日航機「はるな」に搭乗。一路北回り、コペンハ-ゲンに向け出発である。

親切な方々が、外地の陽気の実態を色々心配されて、服の替着、オ-バ-・レインコ-ト・マフラ-等々身の回りに心を使ってくれたが、荷物の増大を恐れて、一切持たず着たつきり雀といったいでたちである。誠に申し訳なし。行ってくるぞと勇ましく、22時30分飛び立ったJALは満員の客(日本人1割)を乗せて快適である。コペンハ-ゲンまで13,330キロ、長い空路である。空路安全のお守りを取り出して、一寸拝んでみる。

途中給油のためアンカレッジに着陸。朝である。時差5時間を加える。初めての朝食を空港食堂でとる。パンがうまい。この空港は北海道千歳空港に似て、まことに無味乾燥殺風景である。温度13度。想像はしていたのだが、食堂のメイド(おば-ちゃんばかり)さんの大きいのに驚

く。なにもかもが馬鹿でかい、休憩1時間、いよいよ北極圏突入である。マッキンレ - の神秘的な偉容、神々しさに目を見張る感激である。

北極圏通過、思い切ってトイレに行く。

北極の真上でたれたくその味

日本から持ち越してきた物を、パンと牛乳で押し出して何とも快適である。機外は「白夜」薄気味悪い暗さである。氷塊が重なり合って岸に押し寄せているのがぼんやり見える。変化の無い光景にいささか眠気を覚える。外の明るさが平常に戻って又朝が来た。コペンハ - ゲンまで間近である。時差11時間戻す。4日という日を再度味わう。妙である。6時40分、待望のデンマークの首都、コペンハ - ゲンに着陸。すがすがしい朝である。空が美しい。空気が実にうまい。思う存分深呼吸をする。

ホテル Neptun までのハイヤ - が日本車(トヨタ)だったのが嬉しくチップをはずむ。運転手がなかなか愛嬌者で、訪欧第一歩を楽しく飾ってくれる。

ホテルのフロントも親切で、小生の言葉で結構用が足りる。面白いと思うと元気が出た。羽田を発ってから朝が二回続いて一睡もしていないが、疲れが出ない。市内見物に飛び出す。

気温17度、歩け歩けで汗をかく。建物が美しい。歩道の石畳が情緒をそそる。訪欧第一歩というせいもあって、見るもの総てが魅力的で飽きない。市中の公園も静寂そのもの、老人達の憩いの場所となっている。町中を散歩している老人がやたらに目につく。東京での騒音と比べて別天地の観がある。花いっぱい運動を呼称して、躍起になっている日本の町のことを思うと、町中花だらけ。どの建物の窓にも庭にも色とりどりの花が咲き競っていて羨ましい。平和の町といった印象が強く残る。

South Sealand Tour を利用して郊外観光としゃれる。見事な道路は快適である。芝生が美しい。花いっぱいの建物が並んでいる。古城の美観壮観はまた感動に値する。

海を隔て、スウェ - デンを望むクロンボルグ城。神秘の湖に囲まれて建ったフレデリックボルグ城。古き物語を秘めて興が尽きない。

賞めたいは花と芝生といい道路

コペンハ - ゲンの印象

青銅の塔、数多い銅像が煉瓦造りの家並みと色彩が溶け合って妙なり。

老人の散策姿が驚く程多い。公園のベンチに編み物をする老婆、新聞に読みふける老人。美しい平和の街。欧州での美しい街の一つといえるのだろう。

自転車に乗る人が多い。(自転車専用道路があるのは羨ましい。)

近代建築のビル、目につくもの少なくなるとまに建っていても場違いの感じがして美観を損なっている。

人柄、近親感があって親切である。こんなところに住んでみたいという人が多いが、なるほどとうなずける、コペンハ - ゲンである。

歩け歩けで2日間実によく歩いた。空気が乾いているせいか、のどが渴く。ビ - ルを飲む、休んでまた飲む。

道にもよく迷った。大人の迷子ほど始末に悪いものはない。ビ - ルの酔いに任せて行き当たりばったりで、道を聞く。地図を広げて、ここだ、ここだと指をさせばたいがい判ってくれる。中には目的地までつれて行ってくれる親切な人もいる。ありがたいことだ。

日本人である 誇りで歩け 世界中

デンマ - クには美人が多いと聞いていたが、残念なことに2日間歩き廻って1人にもお目にかかれぬ。心残りである。ところがである。出発の前夜、最後の夕食にホテルの食堂でピ - ルを味わっていた時、忽然と現れたのが、給仕の女性である。みごと丈は抜群。色はあくまで白くキリリと小さく引き締まった、彫りの深い顔。脅威に近いヴォリュ - ムは、若さをあたりかまわず発散させてくれる。これが北欧美人の典型と、しばし、飲むのも忘れてボ - ゼン。年の頃は17か8か。いやいや立派なものである。明日はドイツへ。いい夢をみながらグッスリ寝るとしよう。

H・G欧米を駆けめぐる()

ロスよりハワイへ

予定された便より早く出発となり、一路ハワイへ。今回最終の目的ハワイまでの行程は楽しい。スチュワ - デス2人もハワイ・スタイルで愛想をふりまいている。乗客は意外に少なく気の毒みたいである。

さんさんと輝く陽光の下でジェット機は翼を光らせて堂々と行く。イヤホ - ンが並んでいて、クラシック・ジャズ・物語など、お好みの放送が聴ける。メンデルスゾ - ンの調べを聴きながら飲み干したサ - ヴイスのシャンペンがたまらなくおいしい。3人がけのシ - トには小生1人、ちょっと胸をはりたくなるような気持になる。

東京から持参したオリンピック百円硬貨が2枚残っている。美しい愛嬌のあるスチュワ - デス2人に贈ろう。これはいい思いつきだった。受け取った彼女はオ - バ - とと思われるほどの喜びようである。

シャンペンのお代わりが来る。(もちろん小生1人にである。)一口飲むと一口分を満たしてくれる。シャンペンのピンが3本くらい空けられたようだ。楽しい音楽を耳にしながら、まことに天下泰平とはこのことか。何も考えず夢うつつ、朦朧とご機嫌この上なしだ。

「熱い！」まさしく火傷の手当てだ。ワイシャツが焦げて穴が開いている。焦げ臭い。煙草の火を落としたりしたい。危ないことだ。気をつけよう。ズボンにも丸い穴が開いていた。大失敗の巻である。前に座っていた青年が肩をすり合わせて笑っている。いつ気がつくかと思って見ていたらしい。「消えてよかったなあ」と残りのシャンペンで乾杯ときた。5時間30分の滞空時間は短かった。ハワイ島が目に入ってくる。いよいよホノルル着だ。

スチュワ - デスがサインをしてくれた。

グロリア・ヘブラ -、ヘレン・ハドソン、いい名前である。握手を交わして別れる。

音楽と酒と美人でハワイ行き

三菱銀行の三好さんが車で迎えてくれる。ご機嫌の小生を見て、初対面である三好さんはびっくりしたのだろうが、良き客到来と喜んでくれた。まったくの快晴、スカッとして暑さも苦にならない。空気がやたらにうまい。美しいレイを売る店が並んでいる空港内はハワイ色でいっぱいだ。日本人の姿が多く目につく。ハワイ特有の花々、木々が美しく物見遊山といった気楽になる。

車をとばしてホテル・ワイキキへ。ワイキキの海岸は目の前である。日本語が大威張りでまかり通ることは、やっぱりハワイならではと思う。清潔な素晴らしい部屋だ。見晴らしがいい。一風呂浴びてアロハに着替える。見も心も軽々として口笛が吹きたくなるような気軽さだ。ワイキキの街を散歩する。見るもの総てハワイ色で観光オンリ - の町並みが続いて、ワイキキの浜辺を

飾っている。広々とした浜辺には海水浴場風景がいっぱいに繰り広げられていて、波乗りに興じている人の群れも多いが、日本の海水浴で見られるような繁雑さはいささかも見られない。おだやかな風景だ。波の色、空の色が鮮やかで、椰子の並木を背景にした自動車道路を突っ走る自動車も、ここでは美しい画の中の風物として溶け込んだ感じだ。咲き乱れる花の色が強烈で目に美しい。水着姿が街中に行く。ここならではの光景だろう。

全ハワイ人口の7割を占めているというホノルルには、その三分の一という日本人がいるといわれる。街を歩いていると日本商社が軒を連ねていて、なにか心強い。それだけにハワイの本当の姿を知るためには、全島8島を見物するのでもなければ語れないのではないだろうか。島巡りには船便もあり航空機もあるが、日程費用が大変だという。

常夏のハワイといわれるだけあってさすがに暑い、風が涼しい。木陰に入れば汗はすぐ引込んでサラリとする。商店街を一軒一軒覗いて歩く。日本商品の多いのに驚く。外地へ来ているという感じが少ない。

吉岡三菱支店長（現在東京在）が三好さんと迎えに来られて、食事に誘われる。久しぶりに飲んだキリンビールがうまい。街へ出て寿司屋に入り板前に座った感じはたまらない魅力だった。出て来たガリが紅しょうがだったのも面白い。

ヒルトン・ハワイアン・ヴィレッジに予約がしてあるというのでお伴する。豪華なレストランで、料理も一級ウイスキーもいい。何よりのサービスはアトラクションのフラであろう。日本にも来たという、ハワイアン・バンドと一級のフラを見せる。品のいいステージに野趣は見られないが、フラの型の種々を披露してくれる。ハワイの夜は更けることを知らない。酒の酔いが適当に廻って夢を見ているようだ。

2日（土）

実によく眠る。寝通して10時、今日も快晴。風も涼しい。観光収入8割を占めるというホノルルだ。よく世界中の人を集め得るものだ。午前中というのに街中は観光客で賑わっている。ハワイ在住40年という老人に話しかけられる。日本の観光客誘致策の無策を嘆いていたようだ。

吉岡さんが自動車をもって迎えに来る。ドライブで島巡りをしようという。車は椰子樹の並木を突き抜けて、ドライブコースは楽しい。赤・白・青・紫と色を競う花々が沿道を飾ってくれる。入江という入江に海水浴客が集まっている。恐ろしいまでに水がきれいで、珊瑚礁が透き通って見えて美しい。

真珠湾が目の前に広がってくる。いやな思い出が、いやという程胸に痛い。平凡な湾で風物も美しくない。

人の歩く道もないジャングルの中に、一筋の自動車道路が走っていて、その中に突っ込んでいく。太い蔓が長く絡み合って垂れ下がっている。自動車の屋根をこする音が不気味だ。薄暗い中から猛獣でも飛び出してくるのではないかと錯覚におそわれる。

さんさんと照る太陽が顔を見せて、本通りにでる。何かほっとした感じになる。

戦没者の墓地が広大な緑の芝生に囲まれて美しい。そなえられた花々の色が目にしみる。この台地から見るホノルルの街の風景は絶景だ。ドライブ3時間、空港へ立寄り。三菱ニュー・ヨーク支店3年6ヶ月勤務、東京支店へ帰任するという青年を見送る。まだ日本を知らないという子供が可愛い。チューインガムのレイをお土産に贈る。喜んでくれた。明日は小生も帰れる。空港で煙草、ウイスキーをノ・タックスで予約してひとまずホテルへ。

今夜は今回旅行最後の晩だ。思う存分楽しく過ごしてみたい。晚餐に招待される。予約できない客が、ホテルのロビ - でうろちょろしている。観光客で場内は満員だ。もうもうと立ちこめる煙草の煙で人の顔も見えない。食うだけ食い呑むだけ呑む。期待されたアトラクションが始まる。ハワイ独特の野趣味たっぷりのステ - ジが造られていて、松明の光に照らし出されるダンサ - の、茶褐色の裸形が元気にあふれて踊り廻る。フラも見事で拍手を浴びている。同じフラ姿の女性が酒のサ - ビスに客席をかき分けて泳ぐように走り廻っている。男性による火踊りの妙技が人気をあおっている。

客席の老人達が連れ出されて入れ替わり立ち替わりステ - ジの上でフラの稽古をつけられる。これは楽しい素晴らしい余興である。腹の皮がよじれるほど愉快である。爆笑が会場いっぱいにあふれて、夜の更けるのも忘れてる。ハワイの味を思う存分味わった楽しさを徒歩で、椰子の並木を海岸沿いに行く。歌が出る。ホテルへ。

3日(日)

空港食堂で別れの乾杯を交わす。贈られたレイが美しい。日本観光客で満員だ。

日本航空801・ダグラス機は羽田へ向け出発する。スチュワ - デスの日本語に日本に帰ったような安心感で寝る。飛び立って3時間、日付変更線を通過、3日が4日となる。

羽田空港の税関は世界一やかましいと聞かされている。違反のない小生、何もこだわることはないのだが、しつこくやられてはかなわない。一覧表を作って提示することにした。土産物、贈られたもの、所持金にいたるまで一目瞭然たるものである。なつかしの羽田着。税関検査わずか30秒。税関吏は人を見る目を持っている。

予定より15分早い羽田着。女房の顔が割切れないような複雑な笑顔になって見えた。孫・子供・親戚・合唱団の兄弟分・恋人達の笑顔が大きくクロ - ズアップされて覆いかぶさってくる。ありがとう。無事元気で2キロも太って戻りました。 (昭和41年)